

2024年度第4回情報教育研究委員会情報専門教育分科会議事概要

I. 日 時：令和7年2月12日（水）17：00～19：00

II. 場 所：Zoom 会議室

III. 出席者：大原主査、藤田委員、北原委員、内山委員、金子委員、佐野委員、矢野委員、高田アドバイザー、齋藤アドバイザー、光井アドバイザー、品川アドバイザー（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事内容

1. SDGs サイバーフォーラムコモンズ試行実験報告について

(1) 産学連携人材ニーズ交流会での報告

- ・パイロットプランの試行実験結果について、3月1日にオンラインで開催する産学連携人材ニーズ交流会で報告することとしている。報告は、2大学、2企業、2団体から行い、全体討議では有効性と課題について意見交換を予定している。

(2) 試行実験結果の確認

- ・対応の日に電車の事故があり大学への移動が間に合わないという事象が発生したこともあり、メンバーが一時に集まる必要のないメタバースの環境が活かされた。
- ・企業社内からネットワークの制約によりメタバースに接続できないこと、接続機器の動作環境によりシステムダウンが発生することなど、構築したプラットフォームでの課題が確認された。
- ・企業の協力を得るには、ブランド力を高める方向性も考慮する必要があるのではないかと。
- ・Zoomの顔見せ型会話よりゲーム感覚で気楽に話ができたと感じた。
- ・日中は、授業やアルバイトで時間がとれないことから夜間での対応になった。
- ・地域の学生としては、離れた地区の企業と話ができる機会は貴重に感じていた。
- ・企業は、PCへのアプリインストールが禁止されておりスマホでの対応を行ったが、スペック、電波状況、画面の大きさ（資料や空間が見渡しにくい）など課題も感じた。
- ・今回は打ち合わせ主体のため動きまわることがなく、メタバース空間の活用が希薄に感じた。
- ・オンライン会議とは違った感じを得て、工夫により魅力ある交流手段として可能性を感じた。
- ・メタバース環境では、様々な情報を提示するモノを設置することができるが、今回は十分に長所を活かしきれていないと感じ、長所を活かす手法により立体的な学習内容理解促進や体験学習など能動的な学修につなげられる環境の可能性はあるのではないかと。
- ・本来は、メタバース上で興味を持った企業からの声掛けで打ち合わせの段取りとなるが、試行実験では、いきなり打ち合わせ段階としたため、学生と企業とで前提条件の不一致があり、マッチングに至る過程での調整・確認を行う必要性の指摘があった。
- ・ビデオ会議は1対1のイメージになりがちだが、アバターのため威圧感がなく、複数名で俯瞰できる感覚を得た。
- ・メタバースの商店街的なメリットを活かすべきだろう。
- ・内容的に、学生提案について提案の進め方などのアドバイスができたと考えている。

(3) 人材ニーズ交流会の全体討議

- ・全体討議の時間は、50分ぐらいを想定している。
- ・一つめは、メタバースの使い勝手をどうしていくのかを議論する予定にしている。
- ・二つめは、理解・意識の共有として、問題発見・課題設定での学生の考えから、企業にとって気づきとなるものがあるのではないかと考えている。また、企業では現実的なメリットが見えないと対応が難しいが、具体的な取組みはマッチング後のステップでの討議になっている。
- ・三つめは、共創活動への手順として、①試行実験の結果を受けて、課題の洗い出しを行う。②実際に実現可能な条件の中で、学生と企業・自治体関係者の交流経験を深め、実践体験を情報共有する。③大学の授業では経験できない社会知の獲得、企業・自治体関係者では斬新な学生の発想からの気づきの獲得を期待していただきたいとした上で、本協会が種を蒔く役割で各大学が進めてもらいたいとの総括とすることにした。

V. その他(今後のスケジュール)

- ・3月1日の産学連携人材ニーズ交流会で試行実験報告を行う予定にしている。